

高等学校 令和5年度（1学年用） 教科

国語

科目 言語文化

教科： 国語 科目： 言語文化 単位数： 3 単位

対象学年組：第 1 学年 A 組～ H 組

使用教科書：（『言語文化』筑摩書房（143 筑摩 言文 712））

教科 国語 の目標：

【知識及び技能】 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。

【思考力、判断力、表現力等】 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。

【学びに向かう力、人間性等】 言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉のもつ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。

科目 言語文化 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
		話・聞	書	読					
A「絵師良秀」（宇治拾遺物語） 古典文法（動詞まで） 【知】古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解することができる。 【思】作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。	・歴史的仮名遣いについて理解する。 ・品詞について理解する。特に用言（動詞）の区別を理解する。 ・文中の省略語を補って現代語訳する。 ・説話の特色について理解する。			○	【知】古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 【思】作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。	○	○	○	11
B 漢文への扉 【知】古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解することができる。 【思】作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。	・日本語と漢文の構造の違いを理解する。 ・漢文訓読の仕方を学ぶ。 ・返り点の種類と、それに従った読み方を理解する。 ・書き下し文の原則を理解する。 ・助字（置き字）の種類と用法を理解する。 ・返読文字の種類と、その読み方・意味を理解する。 ・再読文字の種類と、その読み方・意味を理解する。			○	【知】古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 【思】作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。	○	○	○	4
定期考査						○	○		1

1 学期	C「羅生門」（芥川龍之介） 【知】時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解することができる。 【思】自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫することができる。	・登場人物のやりとりや小説の結末を通して、人間が自身の生死に関する選択をするときの心理を考察する。 ・計算された描写や比喩などの表現技巧を整理し、それらの効果を考える。 ・作品と典拠の文章とを比較して、その違いを考える。				○	○	【知】時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解している。 【思】自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫している。	○	○	○	8	
	D「芥川」（伊勢物語） 古典文法（用言） 【知】古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解することができる。 【思】作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。	・物語の内容を把握し、和歌に託された人物の心情を読み取る。 ・物語に描かれた平安時代の人々の生活や、ものの見方・感じ方を理解する。 ・歌物語の特色や、『伊勢物語』について理解する。						○	【知】古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 【思】作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。	○	○	○	5
	E「借虎威」 「朝三暮四」 【知】我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解することができる。 【思】作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。	・漢文訓読や句法について理解する。 ・教材の内容と故事について理解する。 ・教材に描かれた当時の中国の人々の生活や、ものの見方・感じ方を理解する。						○	【知】我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。 【思】作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。	○	○	○	8
	定期考査								○	○		1	
	F「東下り」（伊勢物語） 「門出」（土佐日記） 古典文法（助動詞） 【知】古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解することができる。 【思】作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。	・物語の内容を把握し、和歌に託された人物の心情を読み取る。 ・日記の内容を把握し、作者の心情を理解する。 ・物語や日記に描かれた平安時代の人々の生活や、ものの見方・感じ方を理解する。 ・日記の特色や、『土佐日記』について理解する。					○	【知】古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 【思】作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。	○	○	○	11	

2  
学  
期

G「塞翁馬」 【知】我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解することができる。 【思】作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。	・漢文訓読や句法について理解する。 ・教材の内容と故事について理解する。 ・教材に描かれた当時の中国の人々の生活や、ものの見方・感じ方を理解する。				○	【知】我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。 【思】作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。	○	○	○	5	
H 唐詩 【知】古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解することができる。 【思】作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。	・それぞれの唐詩を声に出して読み、音声として味わう。 ・唐詩の表現に即して内容を味わい、作者の心情を理解する。 ・唐詩の種類・修辞や、その役割について理解する。				○	【知】古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 【思】作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。	○	○	○	5	
定期考査							○	○		1	
I「待ち伏せ」(ティム・オブライエン) 【知】我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 【思】自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫することができる。	・ベトナム戦争を扱った翻訳小説を読み、そこに表れているものの見方・考え方を捉える。 ・翻訳小説を通して、我が国の言語文化の特質について理解する。				○	○	【知】我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 【思】自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫している。	○	○	○	4
J「丹波に出雲といふ所あり」(徒然草) 古典文法(助動詞) 【知】古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解することができる。 【思】作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。	・随筆の内容を把握し、作者の心情を理解する。 ・随筆に描かれた鎌倉時代の人々の生活や、ものの見方・感じ方を理解する。 ・随筆の特色や、『徒然草』について理解する。					○	【知】古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 【思】作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。	○	○	○	6
K 万葉集・古今和歌集・新古今和歌集 【知】本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解することができる。 【思】作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めることができる。	・それぞれの和歌を声に出して読み、音声として味わう。 ・和歌の表現に即して内容を味わい、作者の心情を理解する。 ・和歌の修辞やその役割について理解する。 ・さまざまな歌人についての理解を深める。 ・『万葉集』『古今和歌集』『新古今和歌集』の特色について理解する。					○	【知】本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解している。 【思】作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。	○	○	○	7
L「管鮑之交」(十八史略) 【知】我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解することができる。 【思】作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。	・本文の内容を把握し、登場人物の心情を理解する。 ・本文に描かれた当時の中国の人々の生活や、ものの見方・感じ方を理解する。 ・中国の歴史・文化について理解する。 ・漢文の特色を声に出して味わう。					○	【知】我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。 【思】作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。	○	○	○	5



高等学校 令和5年度（1学年用） 教科

国語

科目 現代の国語

教科： 国語 科目： 現代の国語

単位数： 2 単位

対象学年組：第 1 学年 A 組～ H 組

使用教科書：（『現代の国語』筑摩書房（143 筑摩 現国 712））

教科 国語 の目標：

【知識及び技能】 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。

【思考力、判断力、表現力等】 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。

【学びに向かう力、人間性等】 言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉のもつ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。

科目 現代の国語 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配 当 時 数
		話・聞	書	読					
A 評論の読み方 【知】文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解することができる。 【思】文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握することができる。	・主題、主張の内容、主張の根拠や理由を把握する。 ・論の構造を捉える。 ・接続関係を把握する。 ・要約文のまとめ方を理解する。		○	○	【知】文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している。 【思】文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。	○	○	○	4
B「デジタル社会」 【知】文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解することができる。 【思】論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりすることができる。	・デジタル社会への認識を深め、情報の氾濫する現代の状況を理解する。 ・対比関係から主張を強調する方法を学び、論理的構成を確認する。	○		○	【知】文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している。主張と論拠など情報と情報との関係について理解している。 【思】論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりしている。	○	○	○	5
1 学 定期考査						○	○		1

1 学期	C「ことばとは何か」 【知】文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解することができる。 【思】自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫することができる。	・言語への認識を深め、言語経験を豊かにし、言語に関する興味・関心を育む。 ・日本語とほかの言語との違いについて調べ、文章を書く。		○	○	【知】文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している。 【思】自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫している。	○	○	○	6
	D「未来は存在しない」 【知】実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法などを理解し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 【思】論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話合いの目的、種類、状況に応じて、表現や進行など話合いの仕方や結論の出し方を工夫することができる。	・論理学の用語について理解する。 ・当たり前や常識だと思われることに対する筆者の主張の進め方や修辞に注目し、認識を深める。	○		○	【知】実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 【思】論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話合いの目的、種類、状況に応じて、表現や進行など話合いの仕方や結論の出し方を工夫している。	○	○	○	6
	定期考査						○	○		1
2 学期	E「魔術化する科学技術」 【知】文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解することができる。 【思】文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握することができる。	・古代・中世の宗教、神話という非科学的方法と、現代の科学という方法の対比を明確にする。 ・現代の社会では科学的方法が万能に見做されるがゆえに、科学が魔術化されるという逆説性を理解する。		○	○	【知】文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している。 【思】文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。	○	○	○	7
	F「マルジャーナの知恵」 【知】実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法などを理解し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 【思】論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話合いの目的、種類、状況に応じて、表現や進行など話合いの仕方や結論の出し方を工夫することができる。	・資本主義の本質を理解し、情報が商品化された背景を知る。 ・語り継がれる寓話や昔話が、今日なお人口に膾炙する理由について考えをまとめ、他者に伝達し、理解を深める。	○		○	【知】実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 【思】論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話合いの目的、種類、状況に応じて、表現や進行など話合いの仕方や結論の出し方を工夫している。	○	○	○	7
	定期考査						○	○		1
2 学期	G「開かれた文化」 【知】文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解することができる。 【思】目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にすることができる。	・筆者の主張する「文化相対主義」について理解する。 ・さまざまな国や地域の風習や文化について調べたり考えたりし、具体例や対比を用いながら文章にまとめる。		○	○	【知】文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している。 【思】目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にしている。	○	○	○	8
	H「身体、この遠きもの」 【知】比喩、例示、言い換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使用することができる。 【思】自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫すること	・「身体」は常に自分と一体のものとして存在するが、それを「遠きもの」と喩える筆者の意図を理解する。 ・慣用句やことわざについての知識を身に付ける。 ・具体例を用いることの効果を理解し、抽象的な概念を説明する力を身に付ける。	○		○	【知】比喩、例示、言い換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使用している。 【思】自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫している。	○	○	○	8

